

Acrobat Pro DC による 3D PDF ファイルの編集

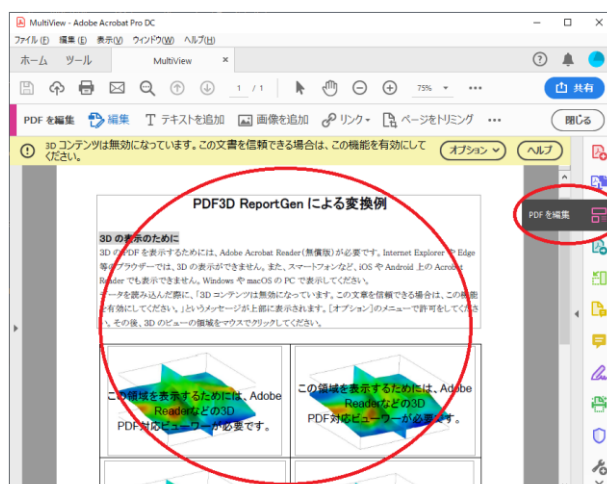
PDF3D ReportGen を利用して作成した 3D PDF ファイルは、Acrobat Pro DC（有償版）で編集することも可能です。3D のビューを操作する際には、以下の点にご注意ください。

このドキュメントでは、Adobe Acrobat Pro DC バージョン 2019.012.20035（Windows 10 64bit 版）を例に説明しています。

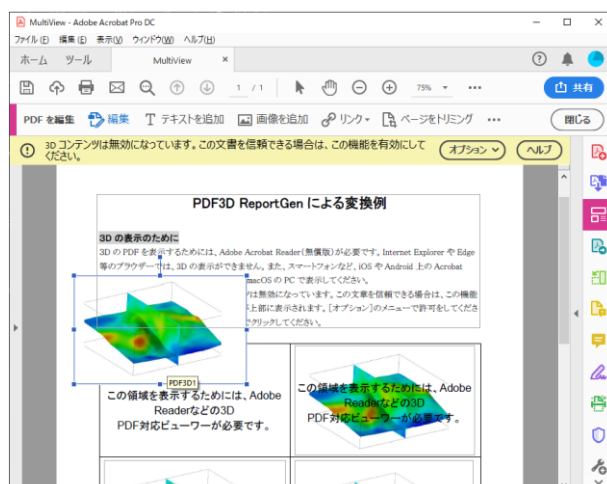
Acrobat Pro の使い方の詳細については、Adobe Acrobat のマニュアル等をご参照ください。

Acrobat Pro による編集

通常、Acrobat Pro でテキストや画像の編集を行うには、PDF を編集の機能を利用して行います。文字列の領域や画像の領域に枠線が表示され、編集が可能となります。



例えば、画像の領域をクリックすると、画像のハンドルが表示され、移動やサイズの変更などが可能になります。



ここで、3D PDF ファイルには、3D のコンテンツが含まれている点にご注意ください。

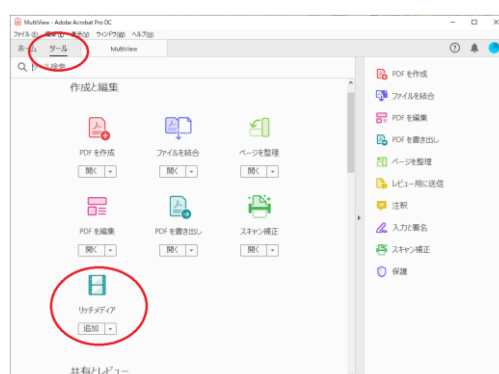
また、特に、PDF3D ReportGen でプレース・ホルダーによるテンプレート PDF ファイルを利用している場合は、プレース・ホルダーの画像を配置し、その上に重ねるように 3D ビューを配置しています。

(画像を差し替えているわけではありません。)

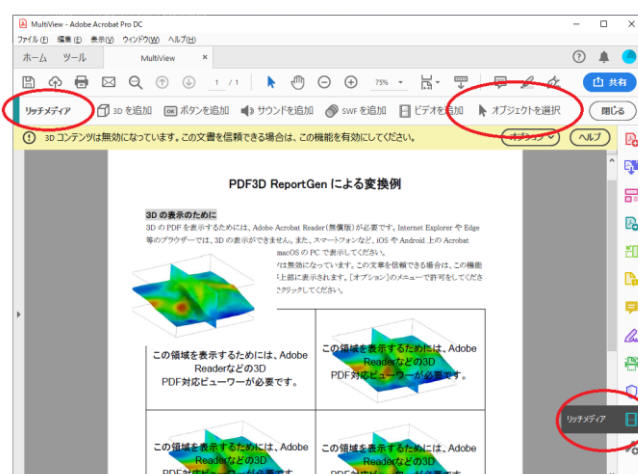
そのため、上図に見られるように、画像と 3D ビュー（上図では、アクティブになる前の Click to のメッセージがある領域）の 2 つのオブジェクトが存在しています。

この 3D コンテンツの配置を操作するには、以下のリッチメディアからオブジェクトを選択する必要がありますので、ご注意ください。

ツールメニューを開き、リッチメディアのアイコンをクリックします。

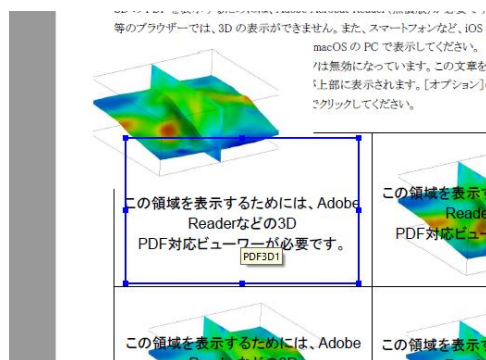


リッチメディアの編集ツールを選ぶと、リッチメディアに対するメニューが表示されます。その右端にある [オブジェクトを選択] を選んでから、3D のビューを選択します。

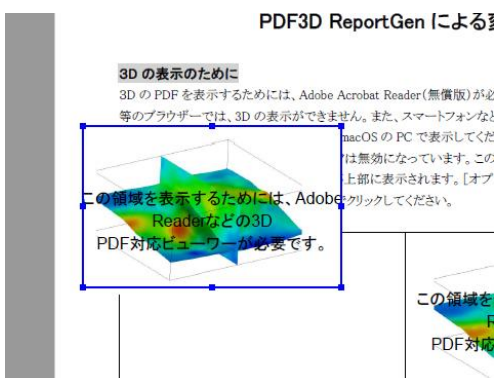


画像の編集同様、3D のビューをクリックすると、ハンドルを持った枠線が表示されます。

下図のように、その枠線を移動、拡大縮小などが可能となります。



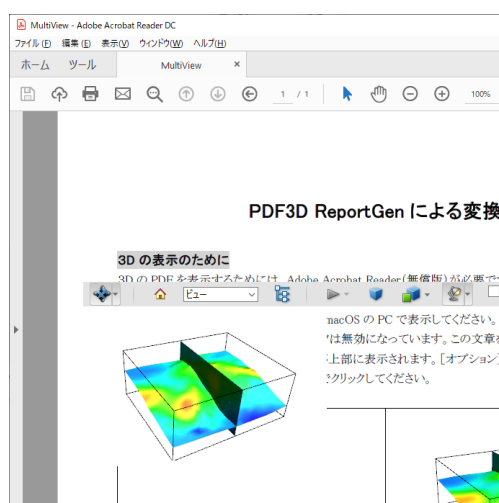
次の図は、上記の 3D のビューワの枠を移動した様子です。



編集が終わったら、上書き、もしくは新規に PDF ファイルとして保存します。

このように、PDF3D ReportGen で変換した 3D PDF では、画像を配置し、その上に重ねるように 3D ビューを配置していますので、元画像の領域と 3D ビューの領域の両方が同じ位置になるように編集してください。

以下の図は、画像と 3D ビューを移動した後に保存した PDF ファイルを開いた様子です。

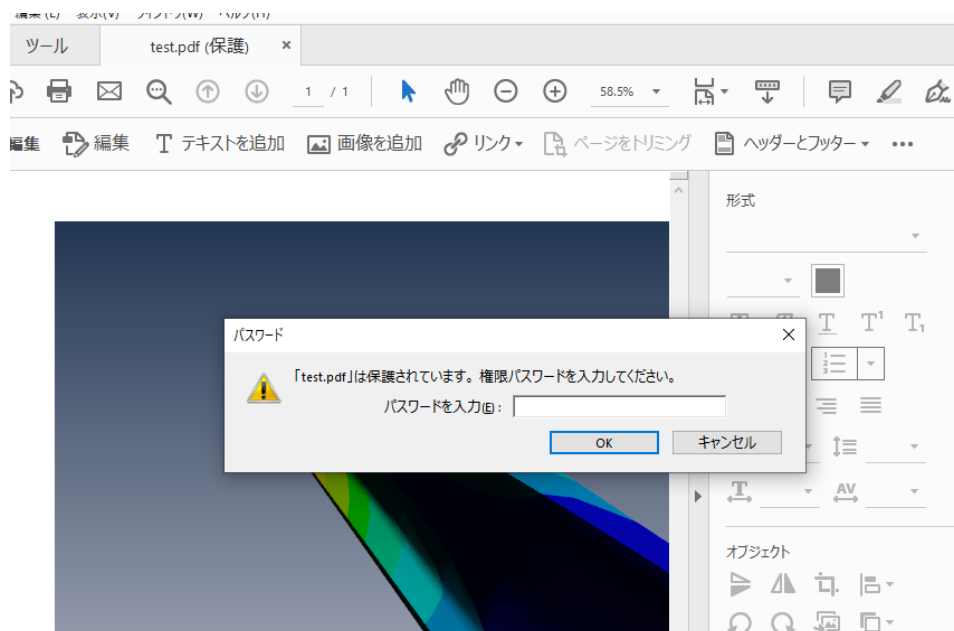


セキュリティとパスワード

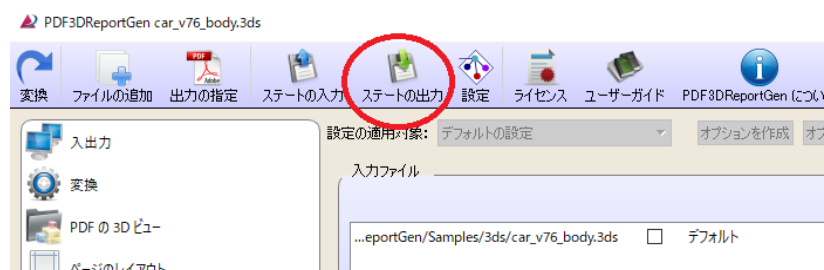
PDF3D ReportGen で標準の設定のまま作成した PDF ファイルにはセキュリティが設定されています。

(詳細については、チュートリアル・ガイドをご参照ください。)

セキュリティの設定された PDF ファイルを Acrobat Pro で編集しようとすると、以下のようにパスワードの入力が求められます。



標準設定のまま変換した場合、このパスワードを知るには、PDF3D ReportGen で、適当なデータを読み込み、一度、ステート・ファイルに保存してみてください。



保存された XML 形式のファイルの中に、パスワードの情報（EnableDocumentSecurity タグの ownerPassword）がありますので、そのパスワードを入力してみてください。